



立花 和之進 医師

権田 勝士 医師

尾崎 章彦 医師

和田 真弘 医師

「持続性」を意識した  
センター化

この度のセンター化に際し、最も強く意識しているのが「持続性」です。乳がんも甲状腺がんも非常に経過の長い病気です。乳がんでは初回治療から10年以上、甲状腺がんだと数十年経過した後の再発もあり得ます。ですから数年スパンではなく、10年、20年と診療を維持し、患者さんの生活を守っていく必要があります。

すでに2023年度から、乳腺甲状腺外科は常勤医師二体制となり、非常勤医師によるサポート体制もより厚みを増しています。今年新たに入職した初期研修医も、初期研修終了後も引き続き当院で、外科や乳腺外科のトレーニングを積むことを希望して

2024年4月1日、当院の乳腺甲状腺外科は「乳腺甲状腺センター」と名称を変え、私もセンター長を拝命しました。多くの方々のご支援に心から感謝するとともに、さらなる発展を通じて恩返しをしていきたいと決意を新たにしております。



公益財団法人ときわ会  
常磐病院

乳腺甲状腺センター長・  
臨床研修センター長

尾崎 章彦

日本外科学会 専門医  
日本消化器外科学会 専門医  
日本乳癌学会 乳房専門医  
検診マンモグラフィ読影認定  
乳房超音波読影認定

一方で、診療スタッフが健康や家庭の事情等でやむを得ず現場から離脱する可能性も念頭においておかねばなりません。そこで、継続的なセンター運営のため、引き続き以下の3点を意識した診療体制の構築に努めてまいります。

一つは、「業務を最適化する仕組み」作りです。特に近年は、「私がいなければ成り立たない業務」を極力減らすこと（属人化の排除）を意識してきました。診療科の立ち上げ期には、やる気がある医療者が周囲を巻き込みながら、前向きに忍耐強く取り組んでいくことが必須です。一方で、立ち上げプロセスの後半では、人員の増強と育成を見据えて「標準化」に重点をシフトしていく必要があります。

(うら面へ続く→)

## 乳腺甲状腺センター設立のご挨拶

ときわ会常磐病院では、地域の医療施設・介護施設との連携を強化するため、当院の最新の医療情報を定期的にお知らせしております。

(↙おもて面からの続き)

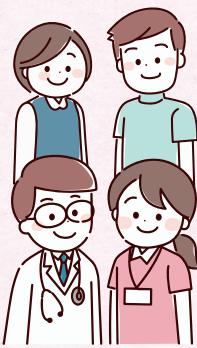
具体的には、2018年の乳腺外科立ち上げ以来、私だけで回していた業務の委譲を少しづつ進め、他のスタッフにも担当してもらうようにしてきました。外科の場合、手術の取り扱いが難しいのは事実です。しかし、患者さんともよく話しながら、安全性を担保した上で、可能な範囲のみ他のスタッフにも任せよう工夫しています。

### 地域医療と自己実現の共存へ

二つめは「地域医療と自己実現の共存」です。地域医療は、えてして個々の医療者の自己犠牲と結びつけて語られてきました。しかし「持続性」を考えるならば、医療者一人ひとりのライフプランや大事にしていることにつける限り寄り添い、尊重し、体制を整えていくことが、良いスパイラルを生み出すと考えています。

そこでドクターについては、できる限り「働き方の自由度」を認め、各人が「自己実現」を追求できるように今年乳腺甲状腺外科部長に就任し、今年乳腺甲状腺外科部長に就任した権田憲司医師の場合は、月2回、以前の赴任地である沖縄県にも行っています。琉球大学で、専門である遺伝診療のカンファレンスに出席するとともに、自らの事業として、沖縄県に古来伝わる植物を用いたお茶を製造しています。

私自身もまた、東京との二拠点生活を続けており、東京および県内の他地域での勤務や研究、海外との共同研究なども広く「エンジョイ」しています。



左から、共に甲状腺診療の強化を図る二村医師（にむら甲状腺と消化器クリニック院長）と尾崎医師、権田医師



左から、共に甲状腺診療の強化を図る二村医師（にむら甲状腺と消化器クリニック院長）と尾崎医師、権田医師



公益財団法人ときわ会常磐病院は、2024年4月に日本内分泌外科学会の認定施設として認定されました。



今回のセンター化に際しては、甲状腺疾患の外来診療を増設したい考えです。これまで、乳腺疾患の診療にエフオートを割かれ、甲状腺疾患の外来診療は限定期実施となっていました。今後は甲状腺

以上、乳腺甲状腺センター長として、包括的な乳線ケアと甲状腺疾患の診療を、持続的に地域の皆様に提供できるよう取り組んでいく所存です。

ぜひ皆様の大切な患者さまの安心を支え、皆様にお力添えできますよう、引き続きご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



## 甲状腺診療の強化 症状などについてご相談・ご紹介ください

ています。そうした市内にとどまらない活動や生活が良い刺激となり、新たな知見と視点を与え、いわきでの活動にも好循環をもたらしていると強く感じています。

### 院内・地域連携の推進

三つめは、「多職種・部門・医療機関との連携」です。能力やキャパシティの観点からも、我々医師のみでできることは限られています。

院内では、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、検査技師、放射線技師、事務スタッフなどと定期的にミーティングを実施し、情報共有を図るとともに、より良いケアを患者さんに提供できるよう引き続き努めます。

また対外的に特に現在力を入れているのが、調剤薬局との連携による薬物療法副作用支援、Advanced Care Planning、地域連携です。現在、乳がんでは少しずつ再発患者も増えており、そのケアにおいても各要素いずれも極めて重要と考えています。

上記に加え、これまで通り妊娠性温存にも取り組んでまいります。

5月に権田医師を部長として遺伝診療部が立ち上がったことを踏まえ、今後遺伝学的な面からも患者のケアを実施していく所存です。

腺疾患についても、内科科外科問わずいつそう広く診療させていただきます。

甲状腺腫瘍、また、バセドウ病や橋本病を疑う症状などがあつた際には、何なりとご相談ご紹介いただけますと幸いです。

先生方におかれまして、甲状腺腫瘍、また、バセドウ病や橋本病を疑う症状などがあつた際には、何なりとご相談ご紹介いただけますと幸いです。

腺疾患についても、内科科外科問わずいつそう広く診療させていただきます。

## 公益財団法人ときわ会 常磐病院（院長 新村浩明） 地域医療連携課

窓口受付/毎週月曜日～金曜日 8:30～17:00

〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57番地

TEL:0246-81-5522 / FAX:0246-81-5577

ときわ会常磐病院では、診療科の増加に伴い診察可能な疾患も増えました。

患者様のご紹介に関しまして、今後もお気軽にお問い合わせください。

